

(社)日本原子力学会
第42回倫理委員会議事要旨

日 時 H21.1.26(月)13:30~17:15
場 所 日本原子力学会会議室
出席者 北村、大場、班目、小川、小沢、鐘ヶ江、作田、杉本、谷、辻、鳥飼、宮越、
三好、矢野(14名)
西原、中安、上木(傍聴者)

配布資料

- 資料 42 - 1 第 41 回倫理委員会議事要旨(案)
- 資料 42 - 2 倫理規程に関する検討事項一覧
- 資料 42 - 3 (回覧資料:第 11 回倫理研究会報告書)
- 資料 42 - 4 (1) 2009 年春の年会(3/23-25)企画セッション提案書
(2) 企画セッション時間配分(案)
(3) 企画セッションみどころ
(4) HP 掲載案内
- 資料 42 - 5 原子力施設立地地域での倫理研究会の開催について(案)
- 資料 42 - 6 平成 20 年度収支予算及び実績表
- 資料 42 - 7 日本原子力学会における倫理ケーススタディ(静電気学会誌)
- 参考資料 42 - 1 原子力活動における技術倫理について(非公開)
- 参考資料 42 - 2 シンポジウム「企業と技術者の倫理とコンプライアンス」開催案内

議事

1. 資料 42 - 1 により前回議事要旨を確認した。
2. 班目幹事より資料 42 - 2 を用いて倫理規程改訂のアンケートによる検討の進捗状況の説明があった。これに関し次の点を確認した。
 - ・論文投稿・校閲に関する倫理指針については理事会で既に検討済みではあるが、正式に決定したことが記録に残っていないため、1 月の理事会で再確認いただくこととした。またこのような指針は会員に知らせなければ意味がないので、周知徹底方法についても確認いただくこととした。
 - ・大学での技術倫理教育充実に向けて実情調査が必要であるが、技術倫理協議会が調査を始めるのでそれに協力していくこととした。また、データを持っていると思われる工学教育協会や室蘭工業大学などにも問い合わせることとした。
 - ・制定・改訂にあたっての Q & A 一覧はホームページに掲載するとともに、これまでの回答について加筆訂正すべきところがないか委員会として議論を続けることとなった。Q & A は委員会の外からの意見への対応だけで、委員会内部の議論については盛り込まれ

ていないが、盛り込むにはどうしたらいいかも検討することとした。なお、次期の改訂の視点はこのQ & Aから抽出すべきであり、Q & Aの議論、検討は今期中に終わることを目標に進めることとした。

- 3 . 作田委員より資料 42 - 3 を用いて第 11 回「原子力に関する倫理研究会」報告書の説明があった。PDF ファイルを関係者に送付するので、最終コメントを作田委員に連絡することとした。また、東大のホームページに掲載することを了解した。
- 4 . 谷委員より資料 42 - 4(1) ~ (4)を用いて 2009 年春の年会企画セッションの内容紹介があった。倫理委員会の活動報告は短くし、意見交換の時間をしっかりとることとした。
- 5 . 鳥飼委員より資料 42 - 5 を用いて第 12 回「原子力に関する倫理研究会」の企画案の説明があった。研究会の目的は立地地域の抱えている問題を倫理委員会として勉強することであることを再確認し、第 12 回は立地地域である柏崎市ないし刈羽村において 7 月頃の開催を目指すこととした。なぜ倫理研究会を開催するのかの外部への説明が必要であることから、趣意書をしっかり書くこととした。鳥飼委員が趣意書の原案を作成しメール等で検討を続けることとなった。
- 6 . 谷委員より資料 42 - 6 を用いて平成 20 年度倫理委員会予算執行状況と平成 21 年度予算案の説明があり、了承した。
- 7 . 作田委員より資料 42 - 7 を用いて静電気学会誌特集解説記事の紹介があった。コメントがあれば作田委員に連絡することとした。
- 8 . 北村委員長より、「原子力界では安全文化を唱え倫理には口をつぐむようになった」との指摘について意見交換したいとの提案があった。続いて杉本委員より参考資料 42 - 1 の説明があり意見交換を行った。今後も、安全文化、企業ガバナンス、QMS、CSR等の概念と技術倫理との関係について議論を続けていくこととし、外部の方を招いての研究会なども検討することとした。
- 9 . 学会のポジションステートメント文案コメントへの協力依頼がなされた。また、米印原子力協定など社会的な問題についての学会の関わり方ほか、学会の情報発信の在り方についての意見交換があった。
- 10 . 次回は 3 月 25 日 (水) の 14 時半から春の年会会場付近で開催することとした。